

# 伊豆縦貫自動車道整備を踏まえた河津町の交流人口拡大を図るための地域振興

日本大学国際関係学部 文化伝承発信研究会

指導教員：助教 松浦康世

参加学生：佐々木碧、唐丹、今村花菜子、大槻佳奈、大森麗奈、  
小畑理子、倉石朱莉、相馬明歌音、高橋芽衣、渡部舞海、  
梅本伽羅、竹内信子、富樫愛日、原田莉緒

## 1. 要約

河津町には、河津桜や河津七滝等の優れた観光資源があるものの、年々観光客の減少が続いている。一方、県東部では、伊豆半島ジオパークが世界ジオパークに認定され、伊豆市で2020年東京オリンピックの自転車競技が開催されるなど、国内外から注目が集まっている。こうした中、河津町の山間部においては、伊豆縦貫自動車道の河津地区と逆川地区にインターチェンジ（以下、IC）の開設と整備が進められており、これを契機に、河津町の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図るための地域振興の方策を考案する。

## 2. 研究の目的

本研究は昨年度の研究を発展させるものである。昨年度は、現地の方々に誘導されてIC周辺地域を散策したが、その場所の多くは自動車でなければ訪問できない名所に限られていた。しかし、伊豆縦貫自動車道の二つのIC開設は河津町全域に観光客を呼び込むだけでなく、沼津・三島のベッドタウンとしての移住地となることも期待される。そこで、今年度の研究では、交通手段の選択肢を広げ、より多くの人々に対して河津町を訪問するきっかけを作れるよう、公共交通手段のみを利用して散策できるモデルコースを考案し、そのコースを紹介するための観光マップを作成する。

## 3. 研究の内容

### (1) 関係者との打ち合わせ

現地の人々からの要望は、大学生の目線で河津町の魅力を発見することであった。そのため、大学生自身で行き先を提案し合い、散策ルートを決めた。その上で、河津町役場を訪問し、町長と企画調整課の方々からお話を伺い、研究の方向性を確認した。更に、河津町観光協会を訪問し、観光マップを作成した場合のウェブサイトへの掲載方法について話し合った。

### (2) 現地散策

訪問に際しては、タクシーを含めた公共交通手段のみを利用して移動するよう計画した。三島駅を出発点として公共交通手段を利用した場合、河津町へのアクセスは、伊豆箱根鉄道で修善寺駅まで行き、そこから東海バスで河津町の各バス停まで行く方法と、JRで熱海駅まで行き、伊豆急行に乗り換えて河津駅まで行く方法の2種類がある。それぞれの利点を見つけるために、行きは修善寺経由、帰りは熱海経由のルートを利用して河津町で2泊3日する計画を立てた。

### (3) 観光マップ作成

観光マップ作成に際しては、次の4つの点について話し合った。一つ目は、河津町のイメージについてである。河津町の特徴を一言で言い表すことはできない。昨年度の研究成果で明らかとなったように、河津町は、自然、人々、文学、歴史、アウトドアなど様々な側面を持っている。モデルコースを考案するにあたり、その全てを網羅することはできないため、訪問者の興味に応じた分類方法を考えることとした。二つ目は、具体的なルートの考案である。観光名所を訪問可能な数に絞り、移動のための交通手段と所要時間を考慮しながら日帰りでも楽しめるモデルコースを作成した。三つ目は、イメージキャラクターのデザインである。イメージキャラクターのイラストをマップの随所に取り入れることにより町のイメージ作りに役立てる。作成にあたっては、部員全員がキャラクター案を一つずつ描き、その中で最も良いものを選び、話し合いにより改良を加えていった。四つ目は、インスタ映えするマップの考案である。マップを持って観光している様子を写真に撮ることを想定し、表紙と裏表紙は特にこだわりを持ってデザインした。

## 4. 研究の成果

(1) 当初の計画

本研究の遂行に際し、次のような行動計画を立てた。

- A. 訪問場所と散策ルートについての話し合い (8月～9月上旬)
- B. 河津町役場での打合せ、河津町観光協会訪問、河津町散策 (9月中旬)
- C. モデルコース考案 (9月～10月)
- D. 観光マップ作成、イメージキャラクターのデザイン (10月～11月)
- E. Illustratorデータの作成、専門家によるコンサルティング (12月)
- F. 観光マップの印刷、報告書作成 (1月)

(2) 実際の内容

上記A～Fは全て計画通りに遂行された。

(3) 実績・成果と課題

前述した観光マップ作成における4つの焦点について、考察結果を次に述べる。

a. 河津町のイメージについて

河津町と言えば何といても河津桜である。河津桜まつりは、2020年の30周年を目前とし、2019年には約90万人を動員した。また、青森から九州まで全国50ヶ所と河津桜ネットワークを結んでいる。しかし、河津桜まつりで賑わうのは2月初旬から3月初旬までのほんの一ヶ月間である。それ以外の期間についての対策を考えなければならない。実際、河津町は桜以外にもカーネーションやバラなどの有名な花がある。1月から5月まではカーネーション見本市が開放され、5月から12月までは河津バガテル公園でバラを楽しむことができる。年間を通して花に恵まれていることから、観光マップのイメージは花を中心に据えることとした。

河津町のイメージとして次に来るものでは、伊豆の踊り子、河津七滝、わさび、温泉が挙げられた。伊豆の踊り子については川端康成の資料館などの名所もあるため文学というカテゴリーで捉えることもできるが、河津には「河津平安の仏像展示館」など歴史を味わう名所もあり、文学と歴史を一つにすることとした。河津七滝については、自然の景色の素晴らしさ、伊豆の踊り子のロケ地、マイナスイオンなど、複合的な魅力がある。また、景色という意味では、河津七滝以外にも海岸沿いや田園風景など様々な場所が挙げられた。わさびについても、わさび田の風景、わさび収穫体験、わさび井など、様々な側面がある。このように分類すると、「自然」、「景色」、「食事」、「温泉」といった項目では収まりきらない。そこで、これらをイメージの種類ではなく、旅行の楽しみ方、あるいは行為の種類によって分類することとした。すなわち、名詞ではなく動詞の言葉を用いて表現する。例えば、文学や歴史に関係する名所については「学ぶ」、景色が楽しめる名所は「眺める」、温泉や足湯は「癒す」、食事ができる場所は「食べる」、体験型のアクティビティーが楽しめる場所は「遊ぶ」である。そして、この5つの要素を「花」のイメージとつなぎ合わせたものを「河津町の5つの魅力」とした。

b. モデルコースの考案

上記5つの魅力を考慮してモデルコースを作成することとなった。しかし、河津七滝のように「癒す」と「眺める」の要素を持ち合わせている名所もある。また、温泉と食事を楽しみたいという人にとっては、「癒す」と「食べる」のどちらかを選択しなければならない。そこで、5つの項目を単体で捉えるのではなく、2つずつ合わせてコースを考えることとした。例えば、河津七滝などの自然の景色と清んだ空気に癒されたい人は「癒す+眺める」、そして温泉と食事を楽しみたい人は「癒す+食べる」を選択する。最後に、隣り合わせの項目についても練り合った結果、右図のようにA、B、C、D、Eの5つのコースが設定された。



次に、「花」というテーマを中心にモデルコースを作るため、開花期間の短い河津桜は除外し、一年をカーネーションとバラの2つの時期に分け、合計10のモデルコースを作成した。まず、テーマに合わせた名所を挙げ、カーネーション見本市と河津バガテル公園への移動がスムーズな名所をつなぎ合わせてコースを考案した。

#### c. イメージキャラクターのデザイン

河津町では2年に一度、観光PRにおいて活躍する「ミス伊豆の踊り子」を選出していることから、このマップでも「踊り子」を主体とし、河津町の名産物を盛り込んだイメージキャラクターをデザインした。キャラクターに盛り込むべき要素として意見が多かったのが、河津桜、わさび、温泉の3つであった。そこで温泉マークのかんざしと桜の髪飾りを付け、わさびを持たせることとした。

イメージキャラクターの名前については、親しみを込めて呼べること、そして誰にでも覚えられる比較的短いものが良いと考え、平仮名で「おどりこちゃん」と名付けた。



#### d. インスタ映えする観光マップのデザイン

観光マップは、持ちやすく、地図が見開きで見られるように、A3サイズの両面印刷を6つ折りにして作成した。このマップを広く知ってほしいという願いから、マップを持って観光している写真をInstagramに投稿して共通のハッシュタグをつけてもらえるように、裏表紙には町名とハッシュタグ用の言葉を入れた。町名は外国人観光客にもアピールできるようローマ字表記とし、河津桜の花びらと枝で文字を表し、背景をわさび色にして表紙と統一感を持たせた。



#### (4) 今後の改善点や対策

当初の計画通り観光マップを完成させることはできたが、内容についてはまだ検討の余地が数多く残されている。その中で最も大きな課題は、情報の量と質の問題である。情報量に関しては、施設の入館料や営業時間、または、レストランのメニューなどの詳細な情報があれば便利であるが、レイアウトやスペース上の制限により掲載できるものが限られてしまった。また、アイデアとして出されてもマップの中に入れ込むことができなかつた内容もある。情報の質に関しても、各施設が開催する行事や花に関するイベント等は毎年少しずつ変動するものであり、正確な日時を記載することができない。記載したところで、印刷された観光ガイドを頼りに訪問してみたが、期待したような開花状況ではなかつたなどの問題も起こり得るため、紹介したいイベントがあつても記載しないことに決めた。

対策としては、各機関やイベントの詳細をQRコードによりリンク付ける、あるいは、ウェブ上でサイトに直接飛ぶような工夫を盛り込むことができる。桜、バラ、カーネーションなどの開花状況は画像やライブ映像が見られるサイトを準備してリンクさせることも考えられる。しかし、その為にはリンク先の機関の一つ一つと連絡を取り、正確な情報を集めなければならない。また、変更があつた場合にすぐに対応できるような体制作りも必要となってくる。本研究の対象期間では時間的な制限により検討できなかったが、今後時間をかけて取り組むべき課題である。

今回作成した観光マップに関する改善点だけでなく、河津町との連携に関しては更に発展の余地がある。今後も河津町への訪問を重ね、地元の人々と交流を続けていけば、新たな発見をするに違いない。その魅力を発信できるような取り組みを模索していきたい。

## 5. 地域への提言

河津町の地域振興に関する研究課題として、今回は観光マップの作成を主なテーマに掲げていたが、その過程において様々な意見が出されたため、地域への提言として次に述べさせていただく。

### (1) 河津を訪問した感想

訪問した17名の全員が河津町に対して良い印象を持ち、是非また訪問したいと述べた。田舎らしさが良いという意見が大半を占める中で、不便さを感じたという意見もあった。全体の感想は次の通りである。

- ・河津の人々の人柄が良かった。押し付けようとはせず、必要に応じて手を差し伸べてくれる。
- ・お店の人が話し掛けてくれてフレンドリーだった。
- ・どこに行っても自然が豊かで癒される。熱海や伊東と比べて地味ではあるが、心がリフレッシュする。
- ・バスに乗っても歩いて、どこへ行っても自然が豊かで美しい。
- ・自然が豊かで子育てに良さそうである。
- ・大きな道路がなく静かで、歩いても気持ちが良い。
- ・花、文学、温泉の他にも様々な楽しみ方があり、多様性があることに驚いた。
- ・河津桜の印象が強いが、他にも観光地が数多くある。あまり知られていないように思う。
- ・コンビニなどの店が少なくて不便だと感じた。お店やレストランが早く閉店してしまう。
- ・ミカン狩りやブルーベリー狩りなどがパンフレットに書いてあるが、実際にやっているのかどうか不安である。パンフレットから想像するよりも現実が寂しいことがあった。
- ・紹介されたタクシー会社の全てが夕方5時で営業を終えてしまったため、IZOO見学後に交通手段がなく、車の多い道路を河津駅まで歩いて帰らなければならなかった。

### (2) 地域振興のためのアイディア

訪問した部員全員が「河津町が好きで、もっと人々に知ってもらいたい」という感想を持った。河津町への訪問者を増やす対策として次のような意見が出された。

- ・自然が豊かであるのをアピールすべきである。隅々まで整備するのは難しいが、ルートを絞って整備すれば観光名所となりそうである。
- ・名所が散在しているため、もう少し集中させるよう商業施設や農園などを誘致したらどうか。ブルーベリー村やストロベリーロードなどを作っても良いのではないかと。
- ・伊豆には河津の他にも花の町として売っている市町が複数あるため、他の要素と組み合わせることにより、河津独特の花のイメージが印象付けられるのではないかと。
- ・カーネーション見本市を目指して行っても時期によっては何もないため、近くのバラ園を開放したり他の花を植えたりするなど、代わりとなるものがあるといい。
- ・修善寺からバスに乗っていると、途中下車したら楽しめそうな場所もあるように見えたが、観光案内がなかったため降りる勇気がなかった。途中下車しながら楽しめるモデルコースがあるといい。
- ・季節ごとの魅力をアピールしたらよい。例えば、春は桜、菜の花、わさびの花、バラなどの花をテーマとし、夏は花火や海水浴や釣りなど海や川に関するイベント、秋は農業体験や紅葉、冬は温泉やイルミネーションなどが紹介できる。
- ・ICが整備されれば車で訪れる人が増えるため、もっとアウトドアや体験型のイベントを紹介すべきである。トライアスロン大会、花火大会、いちご狩り、みかんの収穫体験、稲刈り体験、もちつき、LEDライトアップなどは、近郊の都市に住む人々にとって休日のレジャーに最適である。

## 6. 地域からの評価

本研究は、河津町の企画調整課が推進する地域振興事業の一環として進められた。河津町では既に専門家によるコンサルティングも活用しながら住民が一丸となった様々な取り組みが為されてきており、本研究はその中のほんの一部を担うものである。大学生の能力及ぶ範囲で構わないという自由度の高い機会を提供していただき、伸び伸びと研究を進めることができた。報告についても真摯に耳を傾け、観光マップの完成も喜んでいただいた。観光マップの改良は今後の課題として残されているが、このような機会を提供していただいたことに心より感謝する。